

つむぐ会だより

◆令和4年度第5回介護と医療をつむぐ会
令和5年2月28日(火)
開催報告

No.22 令和5年6月発行 ●発行/流山市 ●編集/介護支援課

入退院支援における多職種連携～相談できる関係づくり～

令和5年2月28日(火)に「入退院支援における多職種連携～相談できる関係づくり～」と題して、流山市内の医療・介護の専門職を対象にzoomでのオンライン研修会を開催し44名の参加者がありました。

事例発表

多職種間で「顔の見える関係」にとどまらず「連相談できる関係」に発展していくために、入退院の事例だけではなく、入院中、退院後、家族支援に至る過程の連携について事例検討を通して、多職種間で考えることを目的に行いました。連携の成功例、うまくいかなかった例の事例発表をもとに、「退院後、こんなはずではなかった」ということをなくすため、多職種連携のとりかた、各専門職の立場から必要情報は何か、どのようにアセスメントし情報を入手するかについて話し合いました。グループ発表からは、「他職種の必要とする情報がわかった。」「各職間の歩み寄りが必要と感じた。」「家族、本人の意向に沿うには、チームでの情報共有が必要だが、踏み込んで情報を得るにはどのようにアプローチすればいいのか。」という発言がありました。総括では、関係性づくりには「友達になることが一番。友達になってくれない人がいたら、私に言ってください」という言葉に笑いが出ました。

「うまく連携してサービス調整ができ、退院翌日に自宅で見取りとなったケース」

「コロナ禍で入院中の様子の確認、退院後の支援について十分相談できず、再び状態が悪化し入院となったケース」



アンケート抜粋

- ・他職種と話せる機会は貴重。
 - ・カンファレンスできない退院支援時にACPの大切さ、チームアセスメントを行うことで、本人に意思決定支援、家族支援につながる事が分かった。
 - ・医療・介護・福祉の連携がより身近で行えるように、つむぐ会が地域ごとの医療連携課題に対して少しでも改善できる可視化した仕組みを構築したい。
 - ・調剤薬局の場合、病院や施設でも情報共有の仕方、入退院の流れなど把握できていないので専門職の方の話が聞けて良かった。
 - ・仕事をする機会があっても、ここまでゆっくり話すことがないのでこのような機会はありがたい。
 - ・退院後には、入院生活より長い生活があることを認識している医療従事者が少ないように感じる。退院後の生活が見えていなければ、本当の医療を提供できるとは思えない。「医療・介護連携」を目指すならもっと医療現場に声をかけてもらいたい。
- ご意見ありがとうございました。
今後つむぐ会を通して、他職種理解、連携の関係づくりを推進していけたらと考えております

次回のつむぐ会は・・・
「ふたたびつながろう

～互いをほめる連携～

令和5年6月30日(金) 18:45～20:45
初石公民館ホールで開催予定です。

久しぶりの対面式での開催です。互いの顔をみながら、ほめあう事例検討を行います。連携っていいもんだなと感じていただける会を目指します。
ご参加お待ちしております。

